

学校だより



令和5年度9月号

なつのかも



本校ホームページ新
QRコードです。スマホ
などからも閲覧できま
す。ご活用ください。

第168号 (R5. 9. 1)

練馬区立光が丘夏の雲小学校

発達を支援する

校長 宮林 伸之

学校に子供たちの元気な声が響き渡りました。夏休み中の学校はひっそりと静まりかえっていましたが、主役の子供たちが戻ってきて、学校には活気が満ちあふれています。教職員一同、子供たちが登校するのを待っていました。

夏季休業中は、青少年育成光が丘地区委員会の夏休み地域パトロールをはじめラジオ体操の推進等、子供たちの安全・安心、健全育成にご尽力いただき感謝申し上げます。改めて「光が丘夏の雲小学校の子供たちは、保護者・地域の方々から守られている」と強く感じました。本当にありがとうございます。この感謝の思いを常に胸に秘め、2学期も教育活動を推進してまいります。

2学期は、6年生の移動教室や1・2年生の遠足、そして、学芸会など…行事が多く予定されています。各行事のねらいをきちんとおさえながら、教育的に意義あるものにしていきたいと考えています。また、週の指導計画に基づき、1時間のねらいを明確にした授業と評価を充実させるとともに、「分かる・できる・表現する」喜びを味わうことができる授業を創造するために指導法の改善に努め、本校の児童に確かな学力が定着するよう学習指導に取り組んでまいります。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。現在、結果を踏まえて授業改善推進プランを作成しています。結果を分析した後に保護者・地域の皆様に通知を発出いたしますのでもうしばらくお待ちください。

さて、子供は内に発達しようとする潜在的な力があります。

このことについて、元国立教育政策研究所統括研究官 滝 充 氏は次のように述べています。

植物の種子が自らの内に発芽に必要な養分を備えていて、条件が整えば自ら発芽していくようなものである。発芽した植物に、状態を確認しないまま過剰に水や肥料を与えたり、内在する力や伸びようとする方向を無視して、育てる者の好みや都合に無理に合わせようとしたりすることは害になることもある。

学校でも、子供の意欲や力をよく把握して、それを十分に発揮させる、うまく発達させるという視点を大切に考えてまいります。

ご家庭でも、「自立させるため」と称して子供を突き放してみたり、反対に転ばぬ先の杖とばかりに先回りして、大人が「してあげる」ことで、子供が自らの体験を通して学ぶはずの機会を奪ったりしていないかを振り返っていただけると幸いです。いろいろな体験を通して多くのことを学び、また、集団生活ですすんで一歩を踏み出せるように温かい後押しが子供の成長に欠かせません。

学校と家庭、地域とで、自らが果たすべき役割を今一度見直し、子供たちの成長を目指し、共に歩んでいけますようご協力をお願いいたします。